

地域特産鶏「九州ロード」を活用した地産地消の取り組み

○山下裕昭・大坂祐里佳・家入誠二
(熊本農研セ)

【目的】

「天草大王」や「肉用熊本コーチン」等の地鶏肉を生産する雌系統として造成した「九州ロード」は、産肉性と産卵性に優れ、しかも、美しい褐色羽装であることから、民宿・農業体験農園・農家直売所等を通じた「都市と農村との交流活動」や「地産地消」推進に適した鶏種（卵肉兼用鶏）であると考えられる。

そこで、「九州ロード」の卵肉兼用鶏としての産卵、産肉能力の調査を行うとともに、現地実証試験を実施し、地産地消への適応性と飼養体系について検討した。

【材料及び方法】

供試鶏として当所生産の九州ロードを用い、21～60週齢まで農業研究センター内の平飼鶏舎で試験を行った。試験区分は定量（制限）給与区と飽食給与区の2区とした。調査項目は産卵率、飼料摂取量、体重、産卵・産肉に関する経済性の試算および農家実証試験における生産物（鶏卵・鶏肉）の評価とした。

【結果および考察】

1) 21～60週齢において、飽食給与では産卵率63%、1羽当たり飼料摂取量40,700gであった

が、定量（制限）給与を行うことにより、飼料摂取量は1羽当たり3,236g少なくなり、産卵率は3.3%高くなった。体重は、飽食給与では3,737gに達したが、定量給与では3,015gとなり、飽食給与を行った方が722g重くなった。

2) 定量給与、飽食給与にかかわらず、21～50週齢の期間の産卵率が最も高くなった。

3) 産卵と産肉を合計した1日当たり収益では、飼養期間を50週齢に設定し、定量給与を行った飼養体系が最も高い経済性を示した。

4) 実証農家による生産物の評価は、卵殻色はやや薄い、産卵率は満足できる。鶏肉の弾力性は、60週齢でも適当であるが、脂肪量が多すぎる。鶏肉の味はいずれの週齢においてもおいしく、今後も継続して飼養したいというものであった。

5) 地域特産鶏九州ロードは、卵肉兼用鶏として優れた能力を持ち、地産地消の推進に適した鶏種であることが確認できた。

6) 卵肉兼用鶏としては、50週齢まで産卵鶏として飼養し、その後、肉として出荷する飼養体系を組み合わせることによって、年間を通して一定の鶏卵生産量が確保でき、しかも、品質低下前に鶏肉の出荷が可能である。

表1 飼料給与法（定量・飽食給与）の違いが産卵率、飼料摂取量、体重に及ぼす影響

区分	産卵率 (%)		飼料摂取量 (g/羽)		体重 (g)	
	定量給与	飽食給与	定量給与	飽食給与	定量給与	飽食給与
21～40週齢	63.4	63.4	18,082	18,328	2,937	3,302
21～50週齢	67.2	64.9	27,736	29,334	3,052	3,675
21～60週齢	66.3	63.0	37,464	40,700	3,015	3,737

注) 体重は、各区分の最終週齢である40週齢、50週齢、60週齢時の測定値。

表2 九州ロードの産卵・産肉に関する経済性試算（100羽当たり）

区分	週齢	飼養期間 (日)	収入		支出			収益	
			卵販売 収入 (円)	肉販売 収入 (円)	飼料代 (円)	育成費 (円)	解体費 (円)	販売 収益 (円)	1日当たり 収益 (円)
定量給与	21～40	140	252,966	67,668	81,371	70,000	28,800	140,464	1,003
	21～50	210	402,192	68,853	124,812	70,000	28,200	248,033	1,181
	21～60	280	529,074	67,295	168,588	70,000	27,900	329,881	1,178
飽食給与	21～40	140	252,966	76,078	82,476	70,000	28,800	147,768	1,055
	21～50	210	388,427	82,908	132,001	70,000	28,200	241,134	1,148
	21～60	280	502,740	83,410	183,150	70,000	27,900	305,099	1,090

注) 卵の販売価格は30円/個、肉の販売価格は中抜き400円/kgで算出。
飼料価格：45円/kg、解体処理費用：300円/羽、育成費：700円/羽で算出。
1日当たりの収益＝販売収益/飼養期間。